

---

# コントでGO！

歌紅夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コントでGO！

### 【Zマーク】

Z2533BA

### 【作者名】

歌紅夜

### 【あらすじ】

ライダーとスーパー戦隊の力を結集してコントを開催！

アイムは黒い！？

マーベラスは寂しがりや！？

などなど。いろいろあるのでお楽しみに！！

初コント～～アイム様は黒い人で女王様～（前書き）

残酷な描写もあるかもしれません、ご注意ください。

## 初コント→アイム様は黒い人で女王様

いきなりで恐縮ですが、これからいろんな意味でコントが始まります。

「ゴー カイガレオン！」いつものとおり、鎖がたれてきてガレオンに乗る。

アイム「思ったのですが…。」

ルカ 「何？」

アイム「ガレオンの鎖つていいくつあるのでしょうか。人を何人殺せる位の鎖があるのでしよう。」

ルカ 「ちょっと待つて。今アイムさ、それ聞く前に何人その鎖を使つて殺したのかな？」

床に転がっているのは…。マーベラス・ジョー・ハカセ・鎧 etc. とにかくガレオンの居住区には死体がたくさん転がっている。

アイム「いえ、目にいたものでつい…。」

ルカ 「これ以上被害者出すのやめよつよおー。」

アイム「分かりました。では最後にルカさんを…。」

ルカ 「え！？ 無差別！？」

鎖を持つてルカの首を絞めた。

アイム「あ！み、皆さん大丈夫ですか！？」

被害者「（お前の記憶力が大丈夫か？）」

てな感じです。これからよろしくお願ひします。

初「ントー」アイム様は黒い人で女王様～（後書き）

その後のアイム。

アイム「え？ 私が皆様の首を！？ 何がなんだか、分かりませんが、  
申し訳ございません！」

被害者「（分からぬんだ）」

「ルカは黒い人を止めるので大変」（前書き）

Let'sコント！

「ルカは黒い人を止めるので大変」

ルカ 「ねえ、アイム本当に覚えてないの？」

アイム 「ええ。全く。」

ルカとアイムはガレオンの鎮で皆の首を絞めたことを話していた。  
アイム「できれば…まだまだ絞めたりないのでもっと絞めたいのですが。」

結局覚えていた。手には血の付いた鎖。

ルカ 「本当にもうやめよう…ね！」

アイム「もう少し<sup>やりたい</sup>絞めたいので…。」

とマーべラスの首を再び絞めた。

マベ 「ヌオッ！やめる、いい加減…ぶほつ…！」 血を吐いた。  
限界が近い。

アイム「分かりました。ではこれが最期です。おやすみなさい、マーべラスさん」

再び首を絞め始めた。

ルカ 「いい加減にしようおおお…！」

本日もルカは、アイムの殺人行為にストップをかけるが、できなか  
つた。

「ルカは黒い人を止めるので大変」（後書き）

その後のルカ。

ルカ 「マー・ベラス、大丈夫？」

マベ 「俺はいいが、ジョーたちが。」

アイム 「ジョーさんも寝ていてくださいね」

ジョー 「やめろおおお！」

ルカ 「これ以上やめて！！」

～剣崎の言ひでいぬ「君が分からぬ」～（前書き）

Let - s ハント -

「剣崎の言つていることが分からぬ。」

死体の中に、ライダーの死体もあつた。剣崎真一だ。

アイム「剣崎さんもお休みになりますか?」（黒い笑み）

剣崎「断つておく。それよりアイム、お前仲間を…。オンドウララギッタノカ《本当に裏切つたのか》!？」

アイム「剣崎さん、今なんとおっしゃいましたか?」

剣崎「だから、オンドウララギッタノカ《本当に裏切つたのか》!？」

アイムはとうとうキレた。

アイム「剣崎さん、言つてている事が全く分からぬので、頭を冷やしましょ。」

マーベラスの首をさつきまで首を絞めていたが、アイムはそれを止め、飛び込み様のプールで嫌な行動に入つたアイム。鎖で剣崎を縛り上げ、10?の飛び込み台から二三メートルの様に剣崎を投げた。

剣崎「オンドウララギラレタ！」  
本当に裏切られた

と叫びながら落ちていった。

アイム「これで邪魔者は居なくなりました。それでも少し…。締めましようか。」  
遊び

と、地獄のショータイム。

マベ 「オンドウル語は意味不明だ。」

そんな風に感じたマーべラスたちだった。

～剣崎の言つている「ことが分からぬ」～（後書き）

さつきの訳は、

「本当に裏切つたのか」

と

「本当に裏切られた」

です。

～ハナヒマイム、やじが強いのか。～（前書き）

Let's ランナー

「ハナとアイム、どちらが強いのか。」

モモタロスは死体になつたハカセに聞いた。

モモ 「なあ、ハナクソ女とあのアイムつていう奴、どっちが強いんだ？」

ハカセ「うーん確かに。」

ハナ 「何よ？ 言いたいことがあるならばつきりいいなさいよ！」

と、ハカセとモモタロスの顔面を殴つた。（巻き沿いです。）

アイム「ハカセさん、彼方も頭を冷やしましようか…？」

鎖を持つてきて2人の首を同時に絞めたアイム

2人 「やめてええええええ！ 殺す氣がああああああああ…」

と、叫んでいる。

アイム「ふふふ。では、お一人ともお休みになつて下さいね」

最終的にハカセは血を吐き、モモタロスは砂になつてしまつた。

ルカ 「他人も巻き込んだ…！ ハカセは良いとして。」

全員 「いいの…？」

ジロー「この戦い…いつまで続くんだ?」

「でも確かにどっちが強いのかな。」

アイム「いつその事、手を結びませんか？」

「そうしようか。」

全員 「うわああああああああ！」

ガレオンは死の世界と化したのでした。ちゃんちゃん

ルカ「ひやんひやんじゃなこよーーーー。」首締めを喰らつていい。

「ハナとアイム、どちらが強いのか。」（後書き）

その後の地獄姉妹

アイム「意外と…楽しいですね！」

ハナ 「皆の悲鳴が気持ち良い」

全員（どうだ…！）

～ジョーはシド・バミック大好き娘（大好きijo）～（前書き）

Let'sコント～

## ～ジョーはシド・バニッシュ大好き娘（大好きヒ）～

ジョーは自室で落ち込んでいた。

マベ 「ジョー、何かあつたのか？」

ジョー「シド先輩…。シド先輩…。」

マベ 「ジョー？」

ジョー「シドセンパアアアイ！…」

マベ 「人の話を聞けっ！」

マーベラスはゴーカイサーベルをジョーに刺した。

ジョー「…マーベラスか。」

マベ 「人の話は聞けっつーの！」

何故こんな状態になつたのか。彼から事情を聞いてみよう。

ジョー「だつてさ、俺38話で<sup>シド先輩</sup>バリゾーグ倒しちだろ？その日からシド先輩の夢ばっかり…。」

マベ 「それ、単なるB」「じゃねえか？」

ジョー「B、B」じゃない。」

マベ 「いま、顔が赤かったが。」

ジョー 「み、見間違いだ。」

～まとめ～

ジョーはシド・バニックが好きすぎてしょうがない。

～ジョーはシド・バニッシュ大好き娘（大好きヒ）～（後書き）

その後のジョー。

ジョー「シドセンパアアアアイ！」

マベ 「いい加減にしろ。」

～マーベラスな物語と題されたが、悲しき氣持がになつてこないがため

Let - s ランナー

～マーべラスはBしてると顔だけで、悲しい気持ちにならなかったり～

あの日以来、ジョーは

ジョー「シドセンパアアアイ！」

と、叫ぶようになった。そしてそれを受けて、マーべラスは落ち込むようになった。

マベ「仲間にならや黙だったかな…。」

するといムがお茶を持ってきた。黒いわけではなく、普通のアイムである。

ルカ「向落ち込んでいんのよー。ジョーは単なるBでしょ？」

マベ「でも、でもおおー。」

もはや自滅。すむとアイムが、

アイム「ジョーさんを…締めましょうか？」

と、もはや黒アイムと化していく。

ルカ「つにでよ。マーべラスも締めて。」

アイム「分かりました。」

と、鎧のバークアイスピアを投げた。

鎧 「お、俺の『一かイスピ』アアアア！」

ジョー 「シドセンパアアアアイ！」

マベ 「ジョーのバカアアア！」

マーベラスはしばらく立ち直れなかつた。

～マーべラスはヨレと顔のだけで、悲しげな気持ちで、

その後のマーべラス。

ジヨー「マーべラス、どうかしたのか？」

アイム「ジヨーさん、あなたのせいでですよ。」

ジヨー「やめ、やめてくれえええー。」

～アイムヒルカの妄想～（前書き）

Let - s ハント -

## ～アイムとルカの妄想～

アイムはルカと話をしていた。どうこうの話かこうこうと…。

ナビイ「何かねマーベラス、気絶している間にアカレッジに会ったみたいなんだよネ」

と言ひのを聞いた後である。

アイム「もしも、マーベラスさんが寂しがりやさんなら、アカレッジさんに会ったとき、どんな反応をしていたのでしょうか？」

ルカ「じゃあ、想像してみようか。」

アイムとルカは、38話の「夢を掴む力」のアカレッジにあったシーンを想像してみた。

マベ「アカレッジオオオ！」（抱きついている）

アカレ「やめろおおおおー！氣持ち悪いーーー！」

ルカ「意外と…泣きじゅくってしても想像できるんだけど。」

アイム「ですね。」

マベ「お前ら…何の話をしているんだ？」

ルカ「え？マーベラスが寂しがりやだつたらという想像だけど？」

マベ 「ふざけんなー。」

アイム「ひからは真剣にやつてこるので。じぱり黙つていってください。お休みなさい、マーベラスさん」

この妄想は、まだまだ続く。

～ジニアと鎌の妄想～（前書き）

Let - s ENT -

## ～ジヨーと鎧の妄想～

ジヨー「なあ、鎧。」

鎧 「何ですか、ジヨーさん。」

傷の手当[てをしなが]りジヨーと鎧は話をしていた。

ジヨー「お前が最初に出たときの妄想、マーベラス限[げん]定で実現した  
ひじりだ？」

と、言つことでジヨーと鎧は想像してみた。

マベ 「やあ、大いなる力をくださいなー。」

ジヨーと鎧は吐き氣[なまけ]がしてきた。

鎧 「こんな想像、するんじゃなかつた。」

ジヨー「想像じゃないだろ。お前の場合、確實に妄想だろ。」

そしてそれを聞きつけたアイムは…。

アイム「ジヨーさん、鎧さん…。少し黙りましょうか。」

銀・青「いやあああああー！」

まとめ、アイムがいるときマーベラスの話題は出さないほうがいい。

「ジョーと鎧の妄想。」（後書き）

少々キャラ崩壊がありますが、大丈夫でしょうか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2533ba/>

---

コントでGO！

2012年1月8日18時50分発行